

Ⅱ 健康相談への対応とその背景

「特に異常が認められないまたは治療を必要としない所見の従業員であっても本人からの相談に応じていますか」という質問項目に対して、応じていると答えた者について、22項目のSQ質問を設定した。

そしてこの22項目から「その他」という項目を除く計21項目の1つ1つがそれぞれどのような変数と関連しているかを分析するのではなく、それぞれ関連性の強い項目を集め、従属変数として設定した次の3つのサブスケール（注1）と、どのような変数とが関連しているかをみる。そしてこの3つのサブスケールを通じて従業員への相談の応じ方がどのような条件によって影響を受けているかを明らかにした。

サブスケール1 日常生活上の不安・不適應感に関すること

1. 育児，しつけに関すること
2. 結婚や遺伝に関すること
3. 職場や家庭での人間関係に関すること
4. 多忙や過労に伴う問題
5. 生活意欲や健康感の低下
6. 仕事に関する不適應感
7. 職場環境や作業方法の健康に及ぼす影響
8. 精神活動や性格についての疑問
9. 性，性器，性生活について
10. 不妊，受胎調整について
11. 美容上の異常感，劣等感
12. 体質に関すること

サブスケール2 受診相談に関すること

1. 健康診断結果に関すること
2. 受診・受療していない自覚症状について
3. 受診して病気や異常を指摘されなかったが，なお不安がある場合
4. 医療機関についての情報や紹介
5. 過去の病気についての不安
6. 家族，友人，知人，職場関係者の健康について

サブスケール3 健康維持に関すること

1. 健康法や日常の生活習慣に関すること

2. 食事や栄養について
3. 体育運動に関すること

これらの質問に4段階の回答肢を設け、無回答・ないと答えたものに0点、ほとんどないと答えたものに1点、時々あると答えたものに2点、よくあると答えたものに3点とそれぞれ得点を与えた。

尚、このグループの平均値が高い項目は、相談活動に応じている頻度が高いことを示す。このサブスケールと、属性、及び合成変数との間の関連性を分析するために一元配置分散分析を行ない(注2)、次にあげる結果を得ることができた。

サブスケール1 (日常生活上の不安・不適應感に関すること)

サブスケール1と有意差が見られた特徴的な点は、回答者の個人的属性では、年齢と経験年数の高い群が相談業務に応じている頻度が高い事、そして職場の属性では、看護職実人員1人当たりの受け持ち従業員数、自分の職場の受け持ち事業所数によって差が見られる点である。

年齢別でみると、55歳以上の産業看護従事者が最も多く相談業務に応じている。その傾向は、他の年代と比べても有意な差がみられる(両者を対比した有意水準、危険率5%未満)。また20代と30代の点数が逆転している以外、年齢が高くなるにつれて相談業務に応じている頻度が高くなっていく傾向が読み取れる事ができる(表8)。

経験年数でみると、経験20年から24年という群が最も多く相談業務に依っており(無回答の方が平均値が高いが度数が少なすぎる)次いで経験15年から19年が、相談業務に応じている。この2つの群は、他の群と比べて、有意な差が見られる。また経験24年までは、経験年数と共に相談業務に応じている割合が高くなるという上昇傾向が見られるが経験25年になるとその割合は下がっているのが特徴である(表9)。

看護職実人員1人当たりの受け持ち従業員で見ると、受け持ち人数300人~3999人、2000人以上の群は相談業務に応じている割合が最も低い。また相談業務に応じている割合の高い群は、受け持ち従業員600人~799人、1000人~1499人、1500人~1999人の群であり、その差は有意である(表10)。

受け持ち事業所数で見ると、3~4施設、20~49施設は相談業務に応じている割合が高く、受け持ち事業所が少ない施設と、多い施設にその割合が高いという傾向が見られる(表11)。

サブスケール2 (受診相談に関すること)

サブスケール2と有意差が見られた特徴的な点は、年齢、勤続年数、経験年数が高い程相談業務に応じている割合が高いといった、回答者の個人的属性である。

年齢別にみると、サブスケール1と同様に20代のほうが30歳~34歳よりも相談に応じている割合が高いことを除けば、年齢が高くなるにつれて相談業務に応じている割合が高くなっていく。また55歳以上の産業看護従事者は最も平均値が高く、他の群と比べて受診相談に応じている割合が高いという傾向があり、その差は有意である(表12)。

勤続年数でみると、勤続20年～24年が最も多く相談業務に応じている。また相談業務に応じている割合が最も少ないのが勤続0年～4年である（表13）。

経験年数でみると、経験20年～24年が最も多く相談業務に応じている。次いで10年～14年が多い。また勤続4年以下、15年～19年にその割合が少ないという傾向は、勤続年数の傾向と類似している（表14）。

サブスケール3（健康維持に関すること）

サブスケール3と有意差が見られた特徴的な点は、回答者の個人的属性ではサブスケール1、2と同様に年齢が高いほど相談業務に応じている割合が高い事。そして職場の属性では、受け持ち事業所数と有意な差が見られた。

年齢別にみると、29歳以下の方が30歳～34歳よりも相談に応じている割合が高いという点以外、年齢が高くなるにつれて相談業務に応じている割合が高くなっている。特に55歳以上は、その傾向が顕著である（表15）。

受け持ち事業所数でみると、受け持ち事業所3～4が、相談業務に応じている割合が最も高い。また受け持ち20～49、50以上の事業所もその割合が高い（表16）。

ま と め

ここで述べたサブスケール1～3と有意に関連している属性及び合成変数（1つの質問項目を調査項目をそのままを使うのではなく1つの仮説を持って加工した変数）以外にも、他の属性や合成変数を従属変数に投入したが、有意な結果は得ることができなかった。ちなみにそれらの属性及び変数は次の通りである。

問5回答者（看護職の一番上のポストにある人）が「衛生管理者に選任されているか否か」。問6「事業所の種類」。問7B「職場の種類」、問6と問7の合成変数「職場・事業所の種類」（〇〇頁参照）と調査票の回答肢そのまま。問8「産業医の選任」。問9「衛生管理有資格者合計数」。問10「看護職の職位」。問11「直属上司」。問12の産業看護の対象。問14A「受け持ち従業員の平均年齢」。問14B「女子職員の割合」。問16「検診結果の返し方」。問17の合成変数「検診結果の看護職による説明」。問19の合成変数「相談窓口の開設」。問22の合成変数「従業員への相談の応じ方」。問27の合成変数「安全衛生委員会開催回数」である。これらの属性及び合成変数は全て職場に関する事柄であり、個人的な属性は含まれていない。そして職場の属性については、サブスケール1において、自分の職場の受け持ち事業所数と看護職員1人当たり受け持ち人数が、サブスケール3において受け持ち事業所数のみが関連しているにすぎない。

サブスケール1～3と有意に関連していた属性及び合成変数は、職場の属性に関連する事柄よりも産業看護従事者の個人的な属性の方が強く影響している。

これらの結果から、それぞれ3つの異なる内容のサブスケールを作成したが、相談活動を実施するという点に関しては、相談活動の内容や職場の属性よりも、産業看護に従事する看護職の個人的な属性によって実施内容の幅の広がりや規定されることが明らかになった。

注1) 21項目に対して因子分析(ヴァリマックス回転)を行ない、その因子負荷量をみてデータを要約し、3つのサブスケールを構成した。

従属変数とは、一般的に原因と呼ばれる変数(独立変数)の影響によって対応する変数である。

サブスケールの信頼性係数(クロンバック α 係数による)はサブスケール1(0.9362)、サブスケール2(0.7338)、サブスケール3(0.7003)。

注2) 一元配置分散分析は、1つの従属変数に対して数グループに分けられた処理の比較を行なう。そして有意水準を0.2~0.001間で任意に行ない、グループ平均間のスチューデントt検定を行なった。尚、ここで用いた方法は、最小有意差法である。

表8 日常生活上の不安に関する相談と回答者の年齢

	度 数	平 均 値	標 準 偏 差	標 準 誤 差
29歳以下	87	1.7174	1.3769	0.1476
30 ~ 34	58	1.5747	1.3159	0.1728
35 ~ 39	115	1.6065	1.3118	0.1223
40 ~ 44	150	1.7750	1.3028	0.1064
45 ~ 49	168	1.9335	1.6652	0.1285
50 ~ 54	187	1.9225	1.6906	0.1236
55歳以上	144	2.5295	2.2729	0.1894
無回答	5	1.7000	0.6417	0.2870
計	914	1.9134	1.6629	0.0550

F値 4.1630 自由度 7 平均平方 11.2386 P<0.1

表9 日常生活上の不安に関する相談と回答者の経験年数

	度 数	平 均 値	標 準 偏 差	標 準 誤 差
4年以下	206	1.6796	1.4021	0.0977
5 ~ 9	221	1.8017	1.5481	0.1041
10 ~ 14	149	1.8837	1.6078	0.1317
15 ~ 19	129	2.0536	1.6860	0.1484
20 ~ 24	87	2.3726	2.1817	0.2339
25年以上	104	2.0040	1.7441	0.1710
無回答	18	2.4583	2.2224	0.5238
計	914	1.9134	1.6629	0.0550

F値 2.5098 自由度 6 平均平方 6.8719 P<0.1

表10 日常生活上の不安に関する相談と看護職実人員1人当り受け持ち従業員数

	度	数	平均値	標準偏差	標準誤差
	200人未満	100	1.8808	1.7912	0.1791
	200～299	93	1.9265	1.6627	0.1724
	300～399	95	1.5035	0.7730	0.0793
	400～599	125	1.8827	1.5641	0.1399
	600～799	110	2.0629	1.6496	0.1573
	800～999	76	1.7127	1.1817	0.1355
	1000～1499	88	1.9820	1.8092	0.1929
	1500～1999	46	2.2699	2.1497	0.3170
	2000人以上	101	1.5974	1.1973	0.1191
	無回答	80	2.5771	2.4710	0.2763
	計	914	1.9134	1.6629	0.0550

F値 3.0039 自由度 9 平均平方 8.1452 P<0.5

表11 日常生活上の不安に関する相談と受け持ち事業所数

	度	数	平均値	標準偏差	標準誤差
	1ヶ所	194	1.8359	1.4183	0.1018
	2	46	1.5833	1.1337	0.1671
	3～4	92	2.1784	2.1708	0.2263
	5～9	136	1.5674	1.1007	0.0944
	10～19	124	1.7493	1.3906	0.1249
	20～49	106	2.1132	1.8728	0.1819
	50ヶ所以上	119	1.9202	1.6321	0.1496
	無回答	97	2.4416	2.2870	0.2322
	計	914	1.9134	1.6629	0.0550

F値 3.3425 自由度 7 平均平方 9.0795 P<0.5

表12 受診相談に関する相談と看護職の年齢

	度	数	平均値	標準偏差	標準誤差
	29歳以下	87	2.2893	0.8721	0.0935
	30～34	58	2.1523	0.6040	0.0793
	35～39	115	2.1942	0.8570	0.0799
	40～44	150	2.2944	0.7763	0.0634
	45～49	168	2.4881	0.9808	0.0757
	50～54	187	2.4260	0.9509	0.0695
	55歳以上	144	2.6956	1.3048	0.1087
	無回答	5	2.4000	0.5217	0.2333
	計	914	2.3986	0.9696	0.0321

F値 3.9117 自由度 7 平均平方 3.5969 P<0.1

昭和63年 産業看護活動実態調査

表13 受診相談に関する相談と看護職の勤続年数

	度 数	平 均 値	標 準 偏 差	標 準 誤 差
4 年 以下	206	2.2532	0.9458	0.0659
5 ~ 9	221	2.3695	0.8702	0.0585
10 ~ 14	149	2.4463	0.9478	0.0776
15 ~ 19	129	2.3463	0.7365	0.0648
20 ~ 24	87	2.6820	1.3653	0.1464
25 年 以上	104	2.4231	0.8989	0.0881
無 回 答	18	2.8889	1.6410	0.3868
計	914	2.3986	0.9696	0.0321

F 値 2.9830 自由度 6 平均平方 2.7681 P < 0.5

表14 受診相談に関する相談と回答者の経験年数

	度 数	平 均 値	標 準 偏 差	標 準 誤 差
4 年 以下	197	2.2563	0.9734	0.0693
5 ~ 9	216	2.4290	1.0112	0.0688
10 ~ 14	166	2.5191	0.9785	0.0759
15 ~ 19	128	2.2135	0.4958	0.0438
20 ~ 24	101	2.5891	1.3318	0.1325
25 年 以上	94	2.4450	0.8100	0.0835
無 回 答	12	2.5278	0.9583	0.2766
計	914	2.3986	0.9696	0.0321

F 値 2.6977 自由度 6 平均平方 2.5080 P < 0.1

表15 健康維持に関する相談と回答者の年齢

	度 数	平 均 値	標 準 偏 差	標 準 誤 差
29 歳 以下	87	2.2874	0.7387	0.0792
30 ~ 34	58	2.0747	0.8378	0.1100
35 ~ 39	115	2.2667	1.1162	0.1041
40 ~ 44	150	2.4044	1.0309	0.0842
45 ~ 49	168	2.4742	1.4060	0.1085
50 ~ 54	187	2.4813	1.1640	0.0851
55 歳 以上	144	2.8310	1.7439	0.1453
無 回 答	5	2.2667	0.4346	0.1944
計	914	2.4500	1.2564	0.0416

F 値 3.3162 自由度 7 平均平方 5.1431 P < 0.1

表16 健康維持に関する相談と受け持ち事業所数

	度 数	平 均 値	標 準 偏 差	標 準 誤 差
1 ケ 所	194	2.3230	1.2121	0.0870
2	46	2.1957	0.6725	0.0992
3 ~ 4	92	2.6232	1.6635	0.1734
5 ~ 9	136	2.2500	1.0615	0.0872
10 ~ 19	124	2.3790	0.8268	0.0742
20 ~ 49	106	2.5346	1.1708	0.1137
50ヶ所以上	119	2.5602	1.2127	0.1112
無 回 答	97	2.8041	1.8116	0.1839
計	914	2.4500	1.2564	0.0416

F値 2.6857 自由度 7 平均平方 4.1852